



水田 恒一 議員

防災に関連して

問

- ① 防災のしおり等に、障害者用トイレやAEDの設置場所の表示を。
- ② 消火栓の正常な水圧確保のための点検を。
- ③ 災害時緊急連絡のため、道路標識に災害時連絡番号と連絡先の表示を。

答

総務部長

① 東日本大震災の状況を踏まえ、東南海・南海地震に関する新たな知見が示され、県による土砂災害警戒区域等の指定が行われる時期をめぐり、防災マップの改定を行う予定である。

障害者用トイレ、AED設置場所等の表示も含め、実用的な防災マップを作成し、配布したい。

② 水利の点検は消防団・消防職員により定期的の実施しているが、水量の計測は実施していない。

水量が減少する原因には、水道管または消火栓内部のさびが考えられるが、現状では内部がさびている可能性がある水道管または消火栓の数は、把握していない。

③ 道路の位置の特定を容易にすることは、有効な予防的措置と思われる。



現行の防災のしおり

位置の表示を道路上に何らかの形で設置することは、道路管理者の許可が得られれば可能である。

具体的な方法、方策については関係機関等との協議のもと、今後の研究課題としたい。

高齢者対策に関連して

問

- ① 救急救命活動に適切な情報確保のため、救急救命情報キットの設置を。
- ② 特養入所希望待機者の現状と今後
- ③ 孤独死や急病等の手遅れ防止に、見守りセンター設置を。

答

市民福祉部長

① 県内でも導入する自治体が増えつつあり、本市内でも導入した地域がある。他市町の状況も踏まえ、研究を行いたい。

② 平成14年度から厚生労働省の指導により、すべての特別養護老人ホーム

が入所指針を定め、介護の必要性の高い高齢者が、優先的に入所できるようになった。

入所待機者は、平成20年が189人、21年が213人、23年が250人である。

入所待機の間は訪問介護やショートステイなどのサービスで対応していきたい。

③ 高齢者を見守るシステムは、次々に開発されており、他の高齢者施策との連携により、効果的に引き伸ばしすると考えられる場合には検討したい。

里帰り出産の乳児予防接種

問

里帰り出産した乳児の予防接種費用が、里帰り先の自治体で認められない場合、本市で接種を受ける乳児同様、本市で費用負担すべきではないか。

答

市民福祉部長

接種期間は、BCG接種を除けば、接種期間が長いことから、県外への里帰りなどの際には、できる限り本市が委託契約している医療機関で受けていただくよう案内している。

ただし、諸事情により定められた予防接種の実施期間内に完了できない場合には、予防接種実施要領で対応方法を定めている。

平成21年度から県外での対応実績はないが、今後近隣市町の状況も参考に、助成制度が必要かどうか前向きに検討したい。

その他の質問事項

- ・図書館の除籍本対策について
- ・瀬戸内海を美しくするために